

面接記録例1

作成者: ○○ ○○

面接日時	2024 年 11 月 5 日 (火) 14 : 00 ~ 14 : 50				
面接回数	1回目	面接場所	302相談室		
相談者名	Aさん	年齢	40歳	性別	男性
その他相談者情報	高校卒業後、X社でスーパー店員として勤務(正社員)。独身、実家で両親と暮らしている。				
来談の経緯	当所HPをご覧になり、予約フォームから申込まれた。				
来談の主な目的	現在勤務しているスーパーが年末に閉店となり、それにあわせて今の会社を退職の予定。今後の方向性を相談したい。				
備考	(面接時の印象、その他特記すべき事項など) あまり言葉数が多くなく、とつとつとお話される。ときどき沈黙もあり。最初は緊張されているのかと思ったが、もともとこのようなコミュニケーションスタイルの方なのかもしれないと感じた。				
面接の経緯			CCの考察、見立て		
Aさんは、現在勤務しているスーパーが年末に閉店となり、それにあわせて今の会社を退職の予定。今後の方向性を相談したいとのことだった。 まずは Aさんが今後の方向性についてどのように考えているか伺った。 Aさんは、退職を機に何か違うことがしたいという希望がある。ただ、他に何ができるかはよくわからず、今後の方向性を決めかねている。また、最近趣味でウェブデザインの勉強を始めていて、ウェブデザイナーとして再就職できたらと何となくではあるが考えている。 私(キャリアコンサルタント)から、これまでの経験を活かした方が転職に有利だと伝えましたが、とにかくスーパー以外の仕事で考えたいとのことだった。 スーパーの仕事について尋ねたところ、Aさんは学校卒業時に就職活動がうまくいかず、親戚の紹介でようやく就職することができたという経緯が語られた。スーパーの仕事をやりたかったわけではないが、他にやりたいこともなかったので、今まで与えられた仕事を「淡々と」こなしてきたとのこと。 同僚の多くが今と同じような仕事で転職活動を進めているが、Aさんはスーパーの仕事はもうやりたくないと考えている。しかし、他に何がしたいかがはっきりしないので方向性が決まらず、何となく今日に至ったとのことだった。 とはいえ、長年の経験を活かすことは転職では有利なことであると私(キャリアコンサルタント)の方から再度伝えたが、明確な返答はなかった。本日は時間になったので、次回の予約をしたうえで終了した。			緊張している様子だったので、ラポール形成を意識し、安心して話してもらえるよう関わった。 今から未経験でウェブデザイナーとしての再就職は難しいと思う。 どうして違う仕事がしたいのだろう。スーパーの仕事の経験を活かした方が就職に有利なのに。 何がしたいのかわからないのであれば、スーパーの仕事でいいと思うのだが…。		
面接全体の所感、今後の方針					
相談者の話にはまだよくわからないところが残っているので次回確認したい。相談者は必要な情報を十分に得ないまま意思決定をしようとしている点に課題を感じた。そこで、まずはウェブデザインの仕事や労働市場についての理解を深めたい。今後の方向性を柔軟に考え、実現していけるよう支援をしたい。					

面接記録例2

作成者: ○○ ○○

面接日時	2024 年 11 月 19 日 (火) 14 : 00 ~ 14 : 50						
面接回数	2回目		面接場所	302相談室			
相談者名	Aさん		年齢	40歳	性別	男性	
その他相談者情報	高校卒業後、X社でスーパー店員として勤務(正社員)。独身、実家で両親と暮らしている。						
来談の経緯	当所HPをご覧になり、予約フォームから申込まれた。						
来談の主な目的	現在勤務しているスーパーが年末に閉店となり、それにあわせて今の会社を退職の予定。今後の方向性を相談したい。						
備考	(面接時の印象、その他特記すべき事項など) あまり言葉数が多くなく、とつとつとお話される。ときどき沈黙もあり。最初は緊張されているのかも思ったが、もともとこのようなコミュニケーションスタイルの方なのかもしれないと感じた。						
面接の経緯				CCの考察、見立て			
まずは前回の面談の振り返りを行ったあと、ウェブデザインの仕事についてたずねてみた。 Aさんは以前から何をしていたかわからず悩んでいた。そんなとき、知人から「仕事に限らず好きなことを探してみたらいいのでは」とアドバイスを受けていたことを思い出し、とりあえず目についたウェブデザインの勉強を始めた。新しいことを学ぶのは新鮮で、取り組んでいると、あっという間に時間が過ぎてしまうなど、Aさんがウェブデザインの勉強に意欲的に取り組んでいることが語られた。 今後はウェブデザインの仕事ができたなら何となく思っているが、今の実力はまだ素人レベルだと自覚もしているので、退職後に専門学校などに通ってしっかり勉強してから就職の方がいいかとも思っていて、そのあたりも迷っているとのことだった。 Aさんに対し、ウェブデザイナーの具体的な仕事内容や求人の内容(求人数や応募条件など)の認識を確認したところ、方向性が決まってから調べようと考えていたので、具体的なことはまだしっかりと確認できていないとのことだった。私(キャリアコンサルタント)の方からは専門学校に行ったところで就職に結びつくわけではないということを伝えた。 終了時間が近づいてきたこともあり、まずは転職サイトなどから、スーパーやその他経験を活かせるような求人を探すこと、履歴書や職務経歴書を作成することを次回までの宿題とした。				Aさんは自身のスキル不足は自覚していたが、スキルを身に付けたところで就職に結びつくわけではないと思う。 ウェブデザイナーにこだわらず、幅広く考えてもらうため、提案を行った。閉店時期も近づいているとのことだったので、転職準備を進めていこうと思う。			
面接全体の所感、今後の方針							
ウェブデザインの仕事について、能力不足は自覚しているようだが、専門学校に行ったとしても現実的には難しいと感じる。どうしたらわかってもらえるだろうか。							

OL資料 ③

事例記録

作成日	2024年12月14日	作成者	〇〇 〇〇
面接日時	202X 年 11 月 X、X+14日（それぞれ X:00 ～X:50（50分間））		
面接回数	1回目、2回目	面接場所	民間の就労支援機関の相談室

相談者情報

相談者名	Aさん	年齢	40代前半	性別	男性
略歴	会社員。スーパー店員として勤務。				
家族構成	独身。実家で両親と暮らしている。				
備考	（面接時の印象、その他特記すべき事項など） あまり言葉数が多くなく、とつとつとお話される。ときどき沈黙もあり。最初は緊張されているのかと思ったが、もともとこのようなコミュニケーションスタイルの方なのかもしれないと感じた。				

事例の概要

来談に至る経緯、目的
現在勤務しているスーパーが年末に閉店となり、それにあわせて今の会社を退職の予定。 今後の方向性を相談したいとのことで、当該就労支援機関のホームページをから相談を申込まれた。
相談内容
相談者は、現在勤務しているスーパーが年末に閉店となり、それにあわせて今の会社を退職の予定。 今後の方向性を相談したいとのことで来談。 相談者は今後についてスーパーの仕事は考えておらず、ウェブデザイナーとしての再就職を何となく考えている。また、退職後に専門学校に通うことも視野に入っている。閉店の時期も迫っており、ある程度の方向性は決めて準備を進めておきたいとの希望があった。 キャリアコンサルタントからは、経験を活かした方がいいのではと伝えたが、Aさんとしては、とにかくまずはスーパー以外の仕事で考えたいとのことだった。スーパーの仕事についての経緯やこれまでの経験を伺ったうえで、キャリアコンサルタントから再度経験を活かすことは有利なことであると伝えたが、明確な返答はなかった。 相談者にウェブデザインに興味を持った経緯を伺った。友人からの勧めがきっかけであったとのことだった。また、ウェブデザインの仕事をできたらいいなと何となく思っているが、実力も考えると、専門学校などに通ってから就職することも考えているとのこと。 ウェブデザイナーの具体的な仕事内容や求人の内容（求人数や応募条件など）の確認を確認したが、まだ調べられていなかった。私(キャリアコンサルタント)からは、専門学校に行ったところで就職に結びつくわけではないということを伝えた。 ここまでの話の流れを受け、まずは転職サイトなどから、スーパーやその他経験を活かせそうな求人を探すこと、履歴書や職務経歴書を作成することを次回までの宿題とした。

考察

相談者の訴える問題 (主訴)	
キャリアコンサルタントが 捉えた問題	
今後の支援方針 (目標・方策など)	
備考 (留意すべき事項、対応 の期限など)	

所感

キャリアコンサルタントとして、この面接でできたこと、改善したいこと、今後の課題など

OL資料 ④

事例記録

作成日	2024年12月14日	作成者	〇〇 〇〇
面接日時	202X 年 11 月 X、X+14日（それぞれ X:00 ～X:50（50分間））		
面接回数	1回目、2回目	面接場所	民間の就労支援機関の相談室

相談者情報

相談者名	Aさん	年齢	40代前半	性別	男性
略歴	会社員。スーパー店員として勤務。				
家族構成	独身。実家で両親と暮らしている。				
備考	（面接時の印象、その他特記すべき事項など） あまり言葉数が多くなく、とつとつとお話される。ときどき沈黙もあり。最初は緊張されているのかと思ったが、もともとこのようなコミュニケーションスタイルの方なのかもしれないと感じた。				

事例の概要

来談に至る経緯、目的
現在勤務しているスーパーが年末に閉店となり、それにあわせて今の会社を退職の予定。 今後の方向性を相談したいとのことで、当該就労支援機関のホームページをから相談を申込まれた。
相談内容
相談者は、現在勤務しているスーパーが年末に閉店となり、それにあわせて今の会社を退職の予定。 今後の方向性を相談したいとのことで来談。 相談者は今後についてスーパーの仕事は考えておらず、ウェブデザイナーとしての再就職を何となく考えている。また、退職後に専門学校に通うことも視野に入っている。閉店の時期も迫っており、ある程度の方向性は決めて準備を進めておきたいとの希望があった。 キャリアコンサルタントからは、経験を活かした方がいいのではと伝えたが、Aさんとしては、とにかくまずはスーパー以外の仕事で考えたいとのことだった。スーパーの仕事についての経緯やこれまでの経験を伺ったうえで、キャリアコンサルタントから再度経験を活かすことは有利なことであると伝えたが、明確な返答はなかった。 相談者にウェブデザインに興味を持った経緯を伺った。友人からの勧めがきっかけであったとのことだった。また、ウェブデザインの仕事をできたらいいなと何となく思っているが、実力も考えると、専門学校などに通ってから就職することも考えているとのこと。 ウェブデザイナーの具体的な仕事内容や求人の内容（求人数や応募条件など）の認識を確認したが、まだ調べられていなかった。私（キャリアコンサルタント）からは、専門学校に行ったところで就職に結びつくわけではないということを伝えた。 ここまでの話の流れを受け、まずは転職サイトなどから、スーパーやその他経験を活かせそうな求人を探すこと、履歴書や職務経歴書を作成することを次回までの宿題とした。

考察(例)

相談者の訴える問題 (主訴)	勤務先の閉店に伴い退職を迎えるにあたって、今後の方向性を考えたい。
キャリアコンサルタントが 捉えた問題	・長年何をやりたいか不明なこと、スーパーの仕事をやりたくない理由やウェブデザインに興味を持っている理由などが明確でないことから、自身の興味・関心、価値観などについての理解が不足しているように感じる。 ・「経験を活かすこと＝スーパーの仕事」と捉えている節があり、自身の経験、能力、適性などを客観的に理解しようとできていないと感じる。 (仕事理解不足と捉えることもできる?) ・ウェブデザイナーの仕事について調べていないなど、意思決定に必要な情報収集が不十分に感じた。(とくに、職業情報や労働市場の情報について) ・スーパー入職から今日までの経緯などから、キャリアビジョンやそれに基づくキャリアプランが明確になっていないように感じた。
今後の支援方針 (目標・方策など)	・自身の興味・関心、価値観などについて理解を深めることで、「何がしたいか」について考え、明確化できるように関わる。 ・自身の経験について客観的に振り替えることで、経験、能力、適性について理解を深める。 ・ウェブデザイナーはじめ、職業情報や労働市場などの今後の意思決定に必要な情報を得られるよう支援する。 ・自己理解や仕事理解を深めたうえで、今後のキャリアビジョン、それに基づくキャリアプランを考えられるように支援する。
備考 (留意すべき事項、対応 の期限など)	閉店(年末)までの早いうちに方向性を決めたいとの希望がある。

所感

キャリアコンサルタントとして、この面接でできたこと、改善したいこと、今後の課題など
できたところは、相談者に関心をもって関わることで、スーパーの仕事のこと、ウェブデザインに関心を持った経緯などについて詳しく伺うことができたと思っている。また、そのなかで相談者の情報不足など問題を捉えることができたと思う。 一方、改善点は、「経験を活かす」ことにキャリアコンサルタントがこだわりすぎて受容的な態度が足りなかったのかもしれないと感じる。また、相談者がスーパーの仕事やウェブデザインの仕事についてどう思っているのか、よくわからないところが残っていてもやもやしている。面談でそのあたりのことを十分理解しないまま進めていたことに後に なって気づいた。